



# かるがも



第53号

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2021年〈令和3年〉11月



## 病院長あいさつ

病院長 星岡 明

コロナ第5波がようやく収束傾向となり、9月30日の期限をもって緊急事態宣言が解除となりました。当院でも面会制限を一部緩和することができました。こども達とご家族に、そして職員に、笑顔が戻ってきています。第6波は必ず来ると予想されていますが、これまでの経験を活かし、それぞれがやるべきことをしっかり行い、こども達を、こども達の医療を守っていきましょう。

ここに、「かるがも53号」をお届けします。お時間がありましたら、どうぞご覧ください。

## ご挨拶

副病院長 中島弘道

今年の夏は猛暑から始まりましたが、8月後半は一転冷夏となり気温差が激しく体調管理等に苦労されたところと存じますが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか？

さて昨年からのコロナウイルス感染は今年も流行を繰り返し、この夏再び緊急事態宣言を迎えてしまいました。第5波はこれまでにない感染者数となり、当院では昨年からの対応に加えて感染症受け入れ態勢を強化いたしました。加えて県立病院の使命として県の臨時医療施設へ多くのスタッフを出す必要があり、それを受けて通常の入院依頼を受けることができなかつたり、予定入院を延期せざるを得ないことがありました。また面会制限を始め患者様とご家族には多大な負担をかけることになっております。成長期の子供たちにとってご家族との交流は欠かせないものではありますが、慢性疾患を持つ子供達にとって感染症対策は特に重要なことであり、どうしても制限せざるを得ないところです。どうかご理解のほどをお願い申し上げます。

このような緊急事態の中、東京オリンピック、パラリンピックが開催されました。開催の是非には様々なご意見がありました。自粛生活のためにテレビ観戦をされた方も多かったのではないのでしょうか？オリンピックでは勝者に注目が集まり賞賛されます。特に陸上競技では、トップ選手のゴールには光が当たりますが、そのあとの選手達はあまり注目されません。競技なので勝つことが大切なのは仕方のないことです。私もメダル至上主義ではありませんが、日本選手がメダルを取ると嬉しく負けると残念に感じてしまいました。しかしパラリンピックのトライアストンを見たときには別の感想を抱きました。パラでは様々な障がいのカテゴリーに分かれて競技を行います。そして同じカテゴリーであっても、その障がいの部位や程度は選手それぞれで異なります。

レースのテレビ中継ではいつものように先頭を走る選手に焦点を当てていました。しかし意外だったことに、私は優勝した選手よりもむしろ、そのあとに続くすべての選手に目を奪われてしまいました。それぞれが自分に打ち勝って苦しみながらもゴールを目指す姿は、強く美しく素晴らしいものでした。そこには勝者敗者の区別はなく、また国籍も関係ありません。レース後どの選手も走り遂げた喜びにあふれており、また共に走った他の選手達に対しても尊敬と賞賛を表していました。これを見て私には、障がいがハンディキャップではなく、生き生きとした個性であるかのように感じられました。

病気のお子様を持つご家族も、「ちがう」ことで苦しみ悩まれるかもしれません。しかしひとりひとり個性が異なるからこそ、それぞれに対して共感や賞賛の気持ちが生まれるのではないのでしょうか？子供達も一人一人がそれぞれの疾患をもちながら前に進んでいます。ご家族も私たち医療者も立場は異なりますが、子供達を支えその回復を祈っている仲間であると思います。これからも共に歩んでいきたいと願っております。

この9月には医療的ケア児支援法が施行されました。「医療的ケア児」とは、日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケア(呼吸管理、喀痰吸引その他の医療行為)を受けることが不可欠である児童をいいます。この支援法は、国や地方自治体の責務等を定めたという点で画期的であります。これにより児とその家族が、その医療的ケアの度合いに応じた適切なサポートを受けながら、充実した生活を送ることができるようになることを願ってやみません。

## 診療科のご紹介 泌尿器科

こんにちは。泌尿器科をご紹介します。

### 「泌尿器科って何をするとところ?」

泌尿器科はおしっこを作るところ～出すところと、外陰部(おしっこの出口と精巣)が専門です。おしっこを作るところは腎臓、貯めるところは膀胱、出す道は尿道。それらの形の異常について手術で治します。腎臓の働きについては<腎臓科>と一緒に考えます。膀胱の機能異常については、外来で長期に治療を続けるべきものもあります。

### 「どんな病気で入院するの?(主なもの)」

- ◎**水腎症**: おしっこを作るところ(腎臓)が、流れが悪くて働きが悪くなったり痛くなったりすることがあります。その場合は手術で流れをよくする必要があります。入院期間は1週間ぐらいです。
- ◎**膀胱尿管逆流**: 膀胱にたまったおしっこが、腎臓に逆流してしまい高熱が出たり腎臓の働きが悪くなったりすることがあります。その場合は逆流を止めるための手術が必要です。一番多い方法は膀胱と尿管の流れ方を治す手術で入院期間は1週間ぐらいです。
- ◎**先天性尿道狭窄症**: 膀胱からおしっこの出口の間の<尿道>に生まれつき狭いところがある場合、頻尿や昼間尿失禁・夜尿症の原因になることがあります。水分の取り方やトイレに行くタイミングを工夫して治る場合は入院は要りませんが、がんばっていても治らずに尿道狭窄が見つかった場合は入院して内視鏡手術を行います。入院期間は1週間ぐらいです。
- ◎**尿道下裂**: お母さんのおなかの中で赤ちゃんの尿道が作られるとき、少し不具合があるとおちんちんが下を向いて曲がったりおしっこの出口が途中までしか作られずに、立っておしっこができない状態になります。生活に困ることが予想される場合には、お子さんがつらくなる前(1～2歳)に、必要に応じて入院・手術で形成を行います。入院期間は約2週間です。
- ◎**停留精巣**: 精巣は生後3～6か月までに陰嚢の中まで降りてきます。びっくりしたり怖い思いをしたりすると、ぎゅっと縮みあがりますが、それとは別に、ちゃんと降りてこないでずっとおなかの中に精巣がとどまってしまう場合があります。将来の精巣機能などを考えると1～2歳の間に手術をして精巣をおろしてあげたほうがいいと言われています。入院期間は3～5日間です。

### 「泌尿器科の外来って怖そう」

確かに膀胱の機能や尿道の構造を調べるためにはおしっこの出口から細いチューブを入れるような嫌な検査もあります。でも、いきなり行うことはありません。本当に検査が必要なお子さんかどうか、きちんとお話や、痛くない検査で確認してから検査内容を説明しています。手術を予定したお子さんでは採血も必要ですが、これも急に行うことはありません。尿が全く出せないなど、緊急時には必要な処置を行うこともあります。

### 「泌尿器科に行くのは恥ずかしいんですが」

泌尿科の先生たち(常勤医・非常勤医共)は優しい人が多いですが、ご希望があれば男性医師・女性医師を選んでいただくことも可能です。基本的にはチーム医療で行っていますので主治医制ではありません。



泌尿器科に関するようなことで悩んでいる方は、是非主治医に相談してみてください。

外来の待ち時間が時々とても長くなってしまったり、改善を図っていますが医師の人数の問題もあり改善が進まず申し訳ありません。

## スタッフの紹介

- 1 氏名
- 2 出身地
- 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら?
- 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方

### 1 本間 澄恵

#### 2 千葉県

東京都中野区生まれ  
千葉県柏市・千葉市育ち

#### 3 こども達の笑顔に癒される場所

#### 4 推理作家

5 わんこの散歩とテレビや映画、読書などでミステリーの謎解き、お風呂、ポケモンGOでバトル

6 コロナがなければ、旅行に行って美味しいものを食べたり新しい発見をしたりが好きですが、今はわんこの散歩とテレビ・DVD鑑賞



### 1 松野 大輔

#### 2 千葉県佐倉市

3 他科コンサルを快く受けてくださる先生が多いこと

4 建築家、ユニークな建築物を見て廻るのが大好きでした

5 爆音でロックを流しながら筋トレ。筋肉痛を抱えて過ごすことに喜びを感じます。

6 早朝ウォーキングのあと、キーンと冷えたプロテインを飲みながら朝風呂に浸かります。



## 診療科のご紹介 血液・腫瘍科

### 【こういう病気を診療しています】

血液・腫瘍科では15歳以下の、腫瘍性疾患(小児がん)と血液内科疾患の診療を行っています。

小児がんは、小児がかかる様々ながんの総称です。一般的には15歳以下にみられる悪性腫瘍のことです。白血病、リンパ腫、脳腫瘍、神経芽腫、腎腫瘍、肝腫瘍、骨肉腫、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、胚細胞腫瘍などがあります。悪性疾患ではありませんがランゲルハンス細胞組織球症(LCH)の治療も行います。

神経芽腫、腎芽腫(ウィルムス腫瘍)、肝芽腫など「芽腫」と呼ばれるがんは、胎児の体の神経や腎臓、肝臓などになるはずだった細胞が、体ができあがった後も残っていて、異常な細胞に変化し、増えていった結果と考えられています。大人のがんとは異なり、生活習慣にがんの発生原因があると考えられるものは少なく、一部遺伝するものもあります。

血液内科疾患は、再生不良性貧血、免疫性血小板減少性紫斑病、鉄欠乏性貧血、先天性溶血貧血などの診療をしています。

### 【どう治療をしますか】

白血病や悪性リンパ腫、脳腫瘍には多くの種類があります。ほかの腫瘍も細かく分類されています。治療法も、がんの種類や場所、広がりによって、それぞれ異なります。

入院診療では血液腫瘍・小児がんに対し多剤併用化学療法を多数行っています。病棟内に無菌室を3床持っており白血病や再生不良性貧血などに対して骨髄や臍帯血・末梢血造血幹細胞移植を行っています。脳腫瘍など固形腫瘍に対しては自家末梢血幹細胞移植を行っています。

移植認定病院であり、非血縁者間造血幹細胞移植も行っています。手術や放射線治療に関しては外科系診療科・放射線科などと連携して治療に当たっています。

### 【病棟の特徴】

血液・腫瘍科病棟では化学療法や免疫抑制療法、造血幹細胞移植など特殊な治療を行うことが多いため小児血液・がん専門の病棟で診療を行います。

院内学級を併設しているため、長期入院中のお子様達も入院前と同様に教育を受けることができます。

ミルフィーユ小児がんフロンティアーズの協力により入院中から退院後までボランティアの皆さんの支援を受けることができます。

## スタッフの紹介

- 1 氏名
- 2 出身地
- 3 こども病院の好きなところ
- 4 医者になってなかったら?
- 5 ストレス解消法
- 6 休日の過ごし方

### 1 落合 秀匡

2 東京都

3 こじんまりしていて納まりが良いところ

4 昆虫博士

5 ぼんやりする、寝る

6 散歩、カメラいじり



### 1 種山 雄一

2 長野県

3 みんながこどもにやさしいこと

4 マタギ、料理人

5 自然の中をぶらぶら歩くこと

6 山歩き ごはんづくり



### 1 安藤 久美子

2 千葉県船橋市

3 様々な職種の方が、子供たちに優しいところ。異動してきて、一番そこに感動しました。

4 考えたことなかったですが…、社員が務まるとは思えません。

5 車内で一人きりで、好きな歌手の歌を聴くこと、歌うこと。

6 家の片付け、子供の世話、一人の時間ができればマッサージに出かける。最近、犬の世話が加わりました。



### 1 宮崎 文平

2 千葉県市川市

3 全てのスタッフがこどものために働いているところ

4 スイミングのコーチ

5 泳ぐ

6 いっぱい寝ていっぱい食べる



## 放射線科のご紹介

### #患者さんの検査はどのように行っていますか

放射線検査において、患者さんは寝台の上で動かないようにする必要があります。じっとしていることを嫌がる子どもの場合、正確な検査ができない可能性があります。子どもが嫌がらないような工夫が必要で、検査室内を子どもになじみやすいものにしたり、苦痛なく体の動きを制限する道具を使ったりしています。

診断に役立つ画像を得るためには、検査中に動かないことがとても重要です。じっとすることが出来ないお子さんには、検査時に鎮静剤を使用する場合があります。一人でも多くのお子さんに鎮静剤なしで検査を受けてもらうために、当院ではYouTubeなどを活用して説明しています。

また、子ども達に検査について理解を深めてもらい、撮影に協力してもらうために、プレパレーションを行います。当院ではチャイルドライフ・スペシャリストと共に、医師、看護師、診療放射線技師が連携して検査を行っています。



### #放射線の被ばくは大丈夫でしょうか

子どもは放射線に対する感受性が成人より高く、体格が小さいため、大人と同様な撮影条件で撮影すると、臓器あたりの医療被ばくは倍々に増えてしまいます。当院ではCT検査や心臓カテーテル検査など最適化された線量で診断を行っています。また、安心して検査が受けられるようにデータを公表しております。可能な限り少ない放射線量で検査を行うように努めています。

### #最近更新した撮影機器はありますか

アイソトープ装置とレントゲン撮影の装置が新しくなりました。撮影室内は、撮影時のストレスや恐怖心を軽減できるようにアメニティを工夫しています。また、子どもの負担を軽減できるように撮影方法の見直しを行い、検査時間の短縮に取り組んでいます。より高精度の診断が可能となるように、情報量の多い画像を提供しています。



# 専門・認定看護師のお部屋へようこそ!

当院には、専門・認定看護師10分野15名が所属しております。

専門看護師:小児看護3名、家族支援1名、

認定看護師:感染管理2名、皮膚・排泄ケア2名、小児救急看護1名、新生児集中ケア1名  
緩和ケア2名、救急看護1名、摂食・嚥下障害1名、集中ケア1名

専門・認定看護師の活動の一環として、看護相談を行っています。当院を利用されている患者様とご家族の多くが、疾患を抱えながら生活を送っていらっしゃる。「診察時間では聞けないちょっとした悩みや疑問を気軽に相談できる場」を提供したいと考えて開設しました。

## <開催概要>

3~4回/月 1回2時間

開催日は、事前に院内ポスターでお知らせ

外来ホール『相談窓口』に専門または認定看護師を1名配置

## <対象患者>

当院入院中または外来受診の患者様とご家族

## <相談内容>

小児看護:自分の体・病気と付き合いながらの生活

感染管理:感染予防対策

皮膚・排泄ケア:スキンケアや皮膚トラブル、排泄ケア

小児救急看護:ホームケア、事故予防、救急蘇生

新生児集中ケア:新生児期・乳児期の育児相談

緩和ケア:心や体の様々な苦痛症状の緩和方法

集中ケア:呼吸管理や合併症の予防

摂食・嚥下障害看護:お口のケアや離乳食の進め方

## <今までに対応した相談内容>

- 皮膚損傷を繰り返す患者の相談
- 手術予定の家族より、入院に際しての相談
- 患者の家族より、救急蘇生方法のについての相談
- 現在高校生より、転院について患者・家族より相談
- 慢性的に疼痛を繰り返している患者の家族より、この先中学・高校と成長し痛みと向き合っていけるのだろうかとの不安
- 現在中学1年より、看護相談で本人のみ来所のため、マイパスポートなど紹介
- 先天性の疾患を持つ患者の進学についての相談



